

JREL 情報

仙台地本

J R 東労働組合仙台地方本部情報
2019年12月13日

発行責任者 武田 浩之
編集責任者 情 宣 部

No.025

「来てくれて ありがとう」 言葉を交わし寄り添えるのもボランティア

ボランティアの取り組みを重ねるごとに、台風19号の爪あとが壮絶なものだと実感しています。11月はのべ32人の仲間がボランティアに参加し、現実を目の当たりにしてきました。

1ヵ月以上経っているのにまだ手付かずの被災住宅があります。公民館に寝泊りしながら片付けのため自宅に通うなど、不安な思いで年末を迎えなければならない方々が多くいます。

ボランティアに参加した仲間は、身体を動かしながら被災している方々と言葉のやり取りをしてボランティアの必要性を実感しています。参加者の感想と共に、被災者の声もお伝えします。

「助かった」「また来て貰えますか」

「とってもきれいにして貰って助かった。1階のものはほとんどダメになった。衣類も泥だらけで捨てて買おうと思ったが費用を考えるとお金がかかるから洗濯した。ボランティアの人に手伝って貰い3~4回洗濯してやっと着れるように」(11月19日 郡山市Sさん)

「被災ゴミは普段のゴミ回収では受け取ってくれない。受け取って貰えるとしても費用が30~40万円近くかかる。自治体では負担してくれない。また来れるなら来てね。ありがとう」

(11月19日 郡山市Sさん)

「年なので来て貰えて非常に助かりました。何から手をつけていいのか、どうしたらいいのかわからずいた。また住めますかね。また来て貰えますか？」(11月22日 郡山市Tさん)

「やいがい実感」「人手はまだ足りない」

「ボランティアの話になって「行ってみたい」と言ったらすぐに誘って貰ってボランティアに行った。やりがいがあった。丸森のボランティアも行ってみたい」(11月19日)

「高齢のおばあさん1人暮らしで、今も小学校に避難していて、やっとボランティア要請をしています。台風当時のままで何も手付かずでした。家財を運び、畳を剥がしましたが1部屋やって時間になりました。あと4部屋残っています。一緒に作業したボランティアの人も「まだ手付かずの家があるとは」と言っていました。まだ申請できていないお宅もある可能性があります。まだまだ人手は足りていない」

(11月22日)



復興支援カンパありがとうございました！ボランティアは12月も続きます！